

# あたらしくはいった本 (令和5年6月 貸出開始資料から)

- 小説 隠居おてだま(西條奈加/著) ひむろ飛脚(山本一力/著) 彼女が言わなかったすべてのこと(桜庭一樹/著) デモクラシー(堂場瞬一/著) 日暮れのと(小池真理子/著) 鈍色幻視行(恩田陸/著) 時々、慈父になる。(島田雅彦/著) 墨のゆらめき(三浦しをん/著) 物語の種(有川ひろ/著) 王の家(江上剛/著) 時を追う者(佐々木譲/著) 能面検事の死闘(中山七里/著) ポーランドの人(J.M.クツツエー/著) 寝煙草の危険(マリアーナ・エンリケス/著)
- 随筆・詩などの文学 村上T(村上春樹/著) 僕はいかに逆境をのり越え世界一翻訳された作家になったのか(シドニー・シェルダン/著) 四十雀、跳べ！(林真理子/著) 海軍こぼれ話(阿川弘之/著)
- その他の本 笠原将弘の副菜の極み158(笠原将弘/著) メメンとモリ(ヨシタケシンスケ/著) 図でわかる鎌田式43のいい習慣(鎌田寛/著) 逆境を生き抜くための教養(出口治明/著) 池上彰の「世界そこからですか!？」(池上彰/著)

## みんなの としょかん



市民図書館  
TEL (921) 4646  
FAX (921) 4896

### 図書館からのお知らせ

問い合わせ 文化学習課 文化学習係(市民図書館) ☎(921)4646

#### こどものための夏の終わりの演奏会 -オーケストラがきちゃった-



本年度で24回目を迎える恒例の演奏会です。オーケストラの迫力のある演奏を体感してみませんか。クラシックを初めて聞く子どもたちでも楽しめます。0歳から入場できます。

日 時 9月2日(土) 午後1時開場・1時30分開演  
場 所 プラム・カルコア太宰府(中央公民館)市民ホール  
演 奏 ひまわりオーケストラ(九州大学芸術工学部フィルハーモニー管弦楽団有志)

※申込不要・入場無料 ※来場者多数の場合は入場をお断りすることがあります。

### としょかんカレンダー

令和5年	日	月	火	水	木	金	土
8			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		

○印の日は、お休みです。

開館時間 午前10時から午後6時まで

金曜・土曜(祝日除く・太宰の日)は午後7時まで

## 古代大宰府の軍事的機能(3) 防人制再論

以前、この欄で古代大宰府の軍事的機能として防人制を取り上げました(令和4年12月1日号)。現在、わたくしは防人制の問題をまとめてみたいと考えて、その研究などを整理しています。その過程で気づいたことを述べてみましょう。

最近の古代軍制史研究の動向を振り返ってみると、防人制に関する研究は必ずしも盛んであるとはいえません。『万葉集』巻20には、天平勝宝7(755)年2月、編者の一人と目されている大伴家持が兵部少輔として、東国から筑紫に派遣される防人たちの検校にあたって、彼らの歌をとりまとめ、その一部を収録した部分があります。いわゆる「防人歌群」と呼ばれるもので、防人制を考えるうえで重要な史料です。しかし、それに関する研究も近年は国文学からのアプローチが主流を占めており、防人制そのものに関わるものではないと思われまます。

しかし、防人制は天智朝頃に成立したと推測されますが、その淵源が中国や朝鮮半島におけるどのような制度にあるのか、あるいは



～公文書館だより⑫～

関連はないのかについても、それほど明確になっていないわけではありませぬ。また、防人制の成立は、律令国家軍制の根幹であった軍団兵士制の成立に先行する可能性が高く、のちにはその軍団兵士制の一環に組み込まれていくこととなります。

防人そのものは、西辺防備のための兵力であり、具体的にいえば北部九州を中心に配備されたのではないかと考えられます。ただ一方で、先にふれた『万葉集』の事例にみられるように、本来的にはその出身地は東国でした。東国は、その北方にいた蝦夷の征討に兵力を割く必要もあり、そのことが、防人の東国からの派遣が、九州での現地調達へと変化していくことに対応しているという説があり、これはきわめて説得的です。

以上のように考えてみると、防人制は単に北部九州という一地域の兵制にとどまらず、日本古代軍制、また軍事政策の一環として捉えるべきことを示していると思えます。

太宰府市公文書館 重松 敏彦

【バックナンバーはこちら】ページID7241